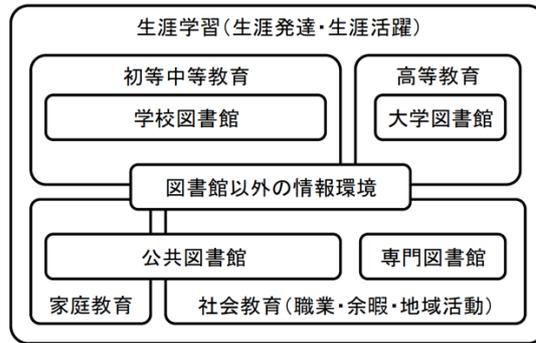


趣旨説明「館種を超えた情報リテラシー教育の枠組み―試（私）論を含めて―」

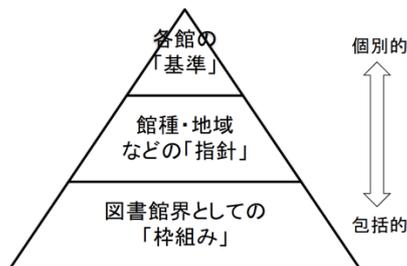
野末俊比古（青山学院大学教育人間科学部）

tnozue@ephs.aoyama.ac.jp

○生涯学習（発達・活躍）の視点から



○基準・指針・枠組み―体系的な取組みに向けて



○日本における指針・基準など（例）

- ・JLA 図書館利用教育委員会「図書館利用教育ガイドライン」  
大学版・学校版（1998）、公共版・専門版（99）、総合版（合冊版）（2001）
- ・全国SLA「情報・メディアを活用する学び方の指導体系表」（2004）
- ・国大図協教育学習支援検討特別委員会「高等教育のための情報リテラシー基準」（2015）

○考慮すべき論点の例（その1）

- ・館種などごとの特徴
- ・図書館以外を含む情報環境
- ・経時的・共時的視点（時間軸・空間軸）
- ・学習（成長）する自律的・主体的存在としての利用者（ライフコースの多様性）

○考慮すべき論点の例（その2）

- ・作成・更新の体制 → 技術依存性／文脈志向性／修得必要性

○今日のプログラムについて

- ・講演・報告（話題提供・問題提起）／グループワーク（各館の実践）  
⇒共有・意見交換  
⇒情報リテラシー教育をめぐる図書館の役割／図書館界としての今後の方向性